1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第10巻第3号　1966年3月1日発行

聖徒の道

3
VOL. 10　No. 3

特集
まことの教会のしるし

表紙のことば

≪もくれん≫　　—モクレン科—

春のモクレンもまた心ひかれる花で，高さ約3 *m*ぐらい，根際から多数新条叢生するので，闊葉樹のような態になる。外側は暗紫色，内側は淡紫色の大きな花を開く。モクレンにはこの他シモクレン，ハクモクレン，サラサモクレンとあり，いずれも美しい花である。

遠くのぞむ山々にはまだ白い雪が残っているが，三月の声をきくと霞は春霞で，空色も春めいてくる。光りやわらかく，春はすくすくとのび菜の花もうつらうつらと午睡の夢を見続ける。ふりそそぐ春雨に野山は静かな情熱をひそめて，若草萌える春をいそぐ。

聖徒の道　3月号　もくじ

予言者のことば　人間の自由意志　デビド・O・マッケイ　2
伝道部長メッセージ　アドニー・Y・小松　8
ハワイ神殿の祈り　10
支部だより　12
私は信ずる　神権により救わる　14
特別読物　まことの教会のしるし　17
本部だより　16
家族のタテキスト　30
図書案内

時令

春雨　春水　遅日　陽炎　若草
摘草　帰雁　雉子　　弥生　花見月　桃月　嘉月　春
　　惜月　孟春　初春　早春　浅春
　　軽暖　春暖　春色　春意　春情
　　春雪　雪解　解氷　麗日

花卉

桃　かいどう　ぼけ　まんさく
木蓮　ひな菊　れんげ　菜の花

長い冬のトンネルを抜けて、
ほのぼのとした春——。

聖徒の道　10巻3号
1966年　3月1日

予言者のことば

人の自由意志

―進歩の永遠の原則―

デビド・O・マッケイ大管長の1965年10月大会における説教

兄弟姉妹たち、皆さんにおあいできますことは、ほんとに私の喜びであります。私はこの機会に皆さんに感謝し、皆さんの御厚情、御信仰、祈りに対し私が如何に深く感謝しているか申上げたいと思います。神は主の御業に献身して居られる皆さんの一人一人を祝福して居られます。イエス・キリストの教会で、皆さんと共に交われますことは、私の光栄であり、つきせぬ喜びであります。

私たちは、主の全世界の彼の教会に対する祝福、その神性な導きと霊感に対し、深く感謝して居ります。私たちは、大きな喜びを以て、皆さんの前に、主の臨在と善意を認め、全心全霊を以て予言者ジョセフ・スミスに与えられた示現に、あわせ応えるものであることを、おごそかに宣言致します。

〝聞け、汝ら諸々の天よ、地よ耳を傾けよ。喜べ、そこに住む者たちよ。主は神にして、主の他に救い主なければなり〟

〝主の知恵は偉大にして、その為したもうところは黙測すべく、その御業の終は誰も知る者なし〟

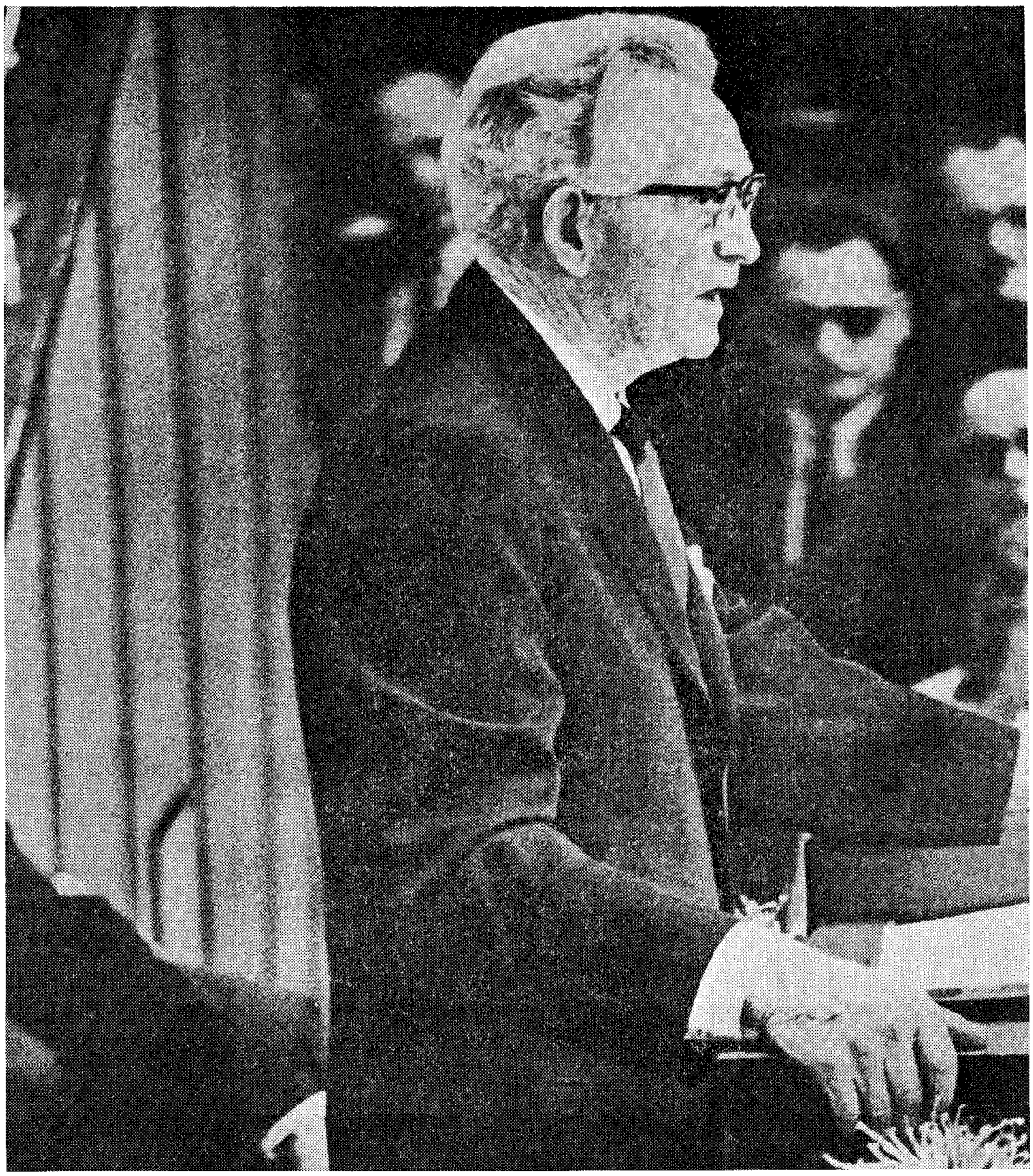
〝主かくの如く言う。主なるわれはわれを畏るる者に恩恵と憐みとを与え、終りまで義しく且つ真実にわれに仕うる者に誉を与うるを喜ぶ者なり。（教義と聖約七六・一―二、五）

私は今朝私の心にあるメッセージを、充分に言い現わすことが、できないのではなかろうかと恐れております。私はこの大会の始めから終りまで、私たちが主と共に在ることを感ずることができるよう皆様の助けと、特に主の霊感をお祈りして居ります。私は皆さんが戸口にまであふれて耳を傾けて居られるのを見て大変喜んで居ります。これは主を愛しその誡命を守る人の姿であります。

私は現在世界に成功を目指している二大勢力のあるのを見逃すわけにはいきません。そして一方の側に於ては未曾有の陰謀を以て活動して居ります。この二大勢力は憎しみと愛であります。憎しみは私たちの前世にその起源を有して居ります。ヨハネ黙示録の中に〝天上に於ける戦争〟に就ての大切な参照（一二・四）があります。それは大切であるばかりでなく、矛盾しているようにも感じられます。何となれば私たちは天上は日の光栄の状態で戦争とか対立は存在し得ないと思っているからであります。この節は、霊界の活動と選択の自由を暗示していますので大切なのであります。この事に就て高価なる真珠に記されて居ります。

〝これを以てそのサタンわれに反きて、われ主なる神のすでに人に与えたる**人の自由意志を滅ぼさんとなし、しかもまたわが持てる権能を自らに与うべきことを求めたるにより**、われわが生みたる独子の権能によりて彼を投げ落さしめたり。

〝而して彼はサタンと成れり、実にあらゆる偽りの父なる悪魔となりて人を欺きだまし、以てわが声に聴き従わぬすべて



の者を欲するままに虜となすなり〟（モーセの著四・三―四）

この節であなたは二つの点に気がつかれるでしょう。一つはサタンが人の自由意志を滅ぼそうとしたことであります。

自由意志は、神の賜であります。それは神の神性の一部であります。もう一つの点は〝われに汝の誉を与えよ〟（四・一）と言っているようにサタンは神に取って代らんとしていることであります。

世界は、各個人に与えられたこの神性な賜の重要性を理解して居りません。

それは決してつくられたことがなく又つくられない英知と同様に受けつがれたものであります。

今日世界にはびこっている憎しみの精神の内には、神そのものの存在が否定され、人の自由意志が奪われて強制力がこれに代らんとしているのであります。

私は人類史上に於て、このように悪が人間の自由を奪おうと決意しているのを見たことがありません。

福音の基本原則は、自由意志であり、聖文にこの原則は、㈠人間の救いに本質的なものであること、㈡人々、組織及び国民の行為の判断される尺度となることを、示してあります。

私たちは聖文で次のように告げられております。〝それであるから、あなたたちは喜び勇め、そして、あなたたちは自分の思う通りに行う自由があるから、限りない死の道を選ぶかまたは永遠の生命

の道を選ぶかは、各自の自由であることをおぼえておけ〟（ニーファイ第二書一〇・二三）

〝地は物に満ち足りて余りあり。然り、われよろずの物を備えて人の子らにこれを与え、人各々を自由意志によりて動く者となす〟（教義と聖約一〇四・一七）

〝故に、何人も相互に縛束するは正しきにあらず。われ実にこの目的のためにわが挙げたる賢き人々の手によりてこの国の憲法を制定せしめ、流血によりてこの国を贖えり〟（教義と聖約一〇一・七九―八〇）

ブリガム・ヤングは言いました。

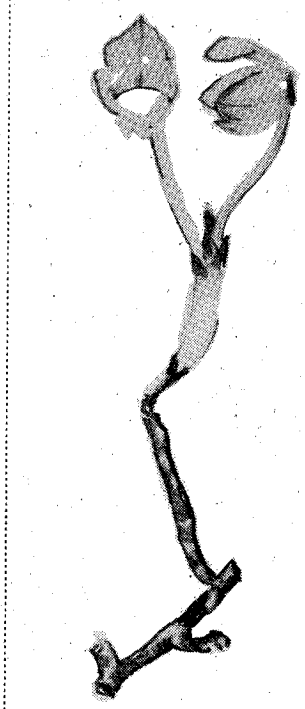
〝私の自主独立は、私にとって神聖であり、それは天上を支配している神性の一部であります。この地上で神の像につくられ、直立して神のように組織され、他人の権利を浸害しない限り、その自由意志の実施を奪われないものは人をおいて他にないのであります。彼らは只注告と模範によるだけであります〟（英文ブリガム・ヤング説教集　一九四三年版六二頁）

すべての闘争の世界の歴史は、殆どが人間が自らを奴隷と略奪から解放しようとする努力であります。

人間の自由意志は、進歩の永遠の原則であり、その自由な実施を奪いまたは禁止する如何なる統治体制も悪いのであります。

始めのサタンの計画は強制であり、それは神が人間に与えた自由意志を破壊するので拒絶されたのであります。

人がこの神から与えられた権利を以て他人の権利を侵害する時は彼は悪を犯して居ります。自由は、勝手な振舞となり人は罪を犯す者となるのであります。違反者を取除き各個人を守ることは国家の機能であります。



私たちの生活を指揮する権利は、生命そのものの付与に次で大きな人への神の賜であります。選択の自由は、この地上で与えられる如何なる所有物よりも貴重になされねばなりません。それは人の霊の中に受けつがれたものであります。それは通常の状態にあるすべての人への神性な賜であります。みじめな貧困の中に生れようと或は大きな相続財産を背負って生れようと、すべて、人が生来授けられている中で最も貴重なものは、人が受けついでいる奪うことの出来ない自由意志の賜であります。それは魂の進歩を推進する根源であります。それは人が神のようになるという主の目的であります。人がこれを達成する為には、創造主にとって先ず彼を自由にする必要がありました。

人には他の如何なる生物にも与えられなかった特別な天性が与えられました。神は彼に選択の能力を与えました。創造主は只人間にだけ言って居ります。〝……汝は自らの為に選択するを得べし。それは汝に与えられたればなり〟（モーセの著三・一七）この神性な選択の能力なくして人類は進歩することが出来ません。

けれどもこの自由意志には責任が伴います。若しも人が義に対し報われ、悪に対して罰せられるなら、当然彼はその行動に自主性を与えられるように要求するでしょう。善悪の知識は、人のこの世に於ける進歩に本質的なものであります。

若しも人が常に善を強制されるなら、或はどうしようもなく罪を犯すようにしむけられるなら彼は前者に対して祝福され後者に対して罰せられることもないでありましょう。人の責任はその自由意志に応じて作用するものであります。神の律法及び自然の律法に調和する行為は幸福をもたらし、神性な真理に対立するものは不幸になります。人はすべての行為に対してだけでなくすべての無益な言葉及び考えに対しても責任を負います。

意志の自由とこれに伴う責任とは、イエスの教えの根本的な面であります。彼はその伝道中を通じて、個人の価値を強調し、現代の啓示に表現されている〝わが業にしてわが栄光〟（モーセの著一・三九）の言葉を以て明示しております。人間の自由という神からの賜を通じてのみそのような進歩は可能なのであります。

今日の世界には力が支配し、個人の自由は国際間の対立と虚偽の政治思想によって脅迫されて居ります。政治的な利益に刺戟されて屢々不賢明な立法がなされ、それが一度判定されるとごういんに自由意志の人権をおびやかし彼から自由の権利を奪って破壊編成車の一歯車に過ぎなくしてしまうのであります。

考えたくないことではありますが私たちは世界の半分が憎しみの影響下に在り中国の指導者によって、またロシヤに於ける共産党によってまたすぐ隣のキューバーに於て、それが見られるのであります。憎しみの精神を伴うのは神の存在を否定するからであります。サタンは創造主に取って代ろうとしたので追払われたのであります。けれども彼の力は未だに作用しているのです。彼は今や、活潑に神の存在、一人子の存在を否定し、イエス・キリストの福音の効力を否定して居ります。

先日A・P通信は、中国の六億の民が憎しみの心によって出来るだけ変えられてしまった或場合に就て述べました。四十五年か五十年前中国に於てはアメリカ人に対し尊敬の念と寛容の心がありました。私自ら親しく北京に在った米国系の中学校に於ける、何処にも見たことのないような活潑な中国の青年を多く見ました。世界の何処にも見られないような丁寧な人たちでしたが今はすっかり変ってしまいました。A・P通信は報じて居ります。

〝二十年前毛沢東によって新しくつくられた人民共和国は、おののくアジヤに赤い影を投げかけて行きました。今日その影は長くのびてアメリカへの地球の半道を這って居ります。それが何処で止まるかを誰もはっきり言うことが出来ません。

六十六才になったこのまる顔の高いひたいの野人は、彼に従う共産党員たちによって半分神さまに、まつり上げられてしまったのです。彼の言葉、行動、はては思想迄も六億三千万の民にとって聖典となってしまったのです。彼はこの地上に於て最も、勢力ある人間であり、その勢力は、人間の最も衰えた感情、憎しみに立脚しているのです。アメリカ合衆国に対する憎しみ、富める地主に対する憎しみ、反革命に対し、蔣介石に対し、すべて従わない者に対する憎しみ。

最近毛の中国から帰って来た旅行者が言いました。〝憎しみ、特にアメリカ合衆国に対する憎しみが常識になってしまっている。この尨大な人間機関車が只憎しみの石炭によって来るのを見るのは実に恐ろしことだ。若しもその代りに愛を用いたら、それは地上で最も強大な国民となるでしょう〟（A・P通信ソルト・レーク発表、一九六〇年十二月十一日）

憎しみの内にこれらの者は神に取って代ろうとして居るのであります。憎しみの内に彼らは神を否定しているのです。彼らは唯一の御子の存在を否定して居ります。彼らは人の自由意志を滅ぼそうとして居ります。

ここでは、愛の精神によって私たちは神の名を崇め、その教義を教えております。

愛の人、イエスを一寸ふりかえって見ましょう。彼は神を崇め礼拝しました。そして彼自身すべてのクリスチャン、国民及びいろいろの階層の人々から崇められ礼拝されました。〝将来どのようなことが起ろうとも、イエスに勝る者は決し

てあり得ない〟とレナンは書いております。

種々異った言葉を話し、異った思想を懐いている数百、千万の人々が今日イエスを崇め礼拝しているのです。私たちはイエスの知恵と霊的なものがすべての他のものを含み、かつ勝っているからイエスを崇めるのであります。

〝わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう〟（ヨハネ伝八・一二）と言ったのは彼でした。彼はまた言いました。〝わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ〟（ヨハネ伝一三・一五）

先ず愛の心を以て、神に対するイエスの態度を考えて見ましょう。共産党が今日イエスを否定し毛が彼を嘲笑し彼らが無数の人々の心をキリストに反して毒していることは今日に於ける重大問題であります。

イエスが肉体をとって現れ給うた時、どうであったでしょうか？　彼の誕生を宣言して天の群勢は歌いました。〝いと高きところでは、神に栄光があるように地の上では、み心にかなう人々に平和があるように〟（ルカ伝二・一四）このメッセージの中には神性と平和と兄弟の親愛があります。

イエスはこの地上に在る間に、この神性をあらゆる時に身を以て示しました。その伝道の始めにヨルダンの岸で彼がヨハネに言った言葉を私たちは聞きます。

〝今は受けさせてもらいたい。このように、すべての正しいことを成就するのはわれわれにふさわしいことである〟（マタイ伝三・一五）

彼がバプテスマを受けたヨルダンの上方に高くなっている試みの山で彼は、神に取って代ろうとする誘惑者から試みられたのであります。地上に於けるすべてのもの、すべての勢力を以て試みられたのです。私たちは彼が最高の威言を以て言われたのを聞きます。

〝サタンよ、退け。「主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ」と書いてある〟（マタイ伝四・一〇）

彼が弟子たちに祈ることを教えた時、先ずその願いに神の名を崇めました。

〝御名があがめられますように〟（マタイ伝六・九）

最後の晩餐で十二弟子に彼は言いました。〝永遠の命とは唯一の、まことの神でいますあなたと、またあなたがつかわされたイエス・キリストを知ることであります〟（ヨハネ伝一七・三）

これが愛の精神であり、愛する御子を通じて天地の創造主、神に持つ信仰心であります。神は唯一の御子によって礼拝されるのであります。

平和の状態はどのようなものでしょうか？

平和は人間の自然な幸福な状態で、人間の第一の祝福であります。これなくしては、幸福はなく、予言者ジョセフ・スミスは〝幸福は私たちの生存の目的であり、私たちがそれに導かれる道を進む時それは最終点であります。（英文予言者ジョセフ・スミスの教え二五五頁）

イエスは言いました。〝……あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている〟（ヨハネ伝一六・三三）

同じ時にイエスは言いました。〝わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる……〟（ヨハネ伝一四・二七）

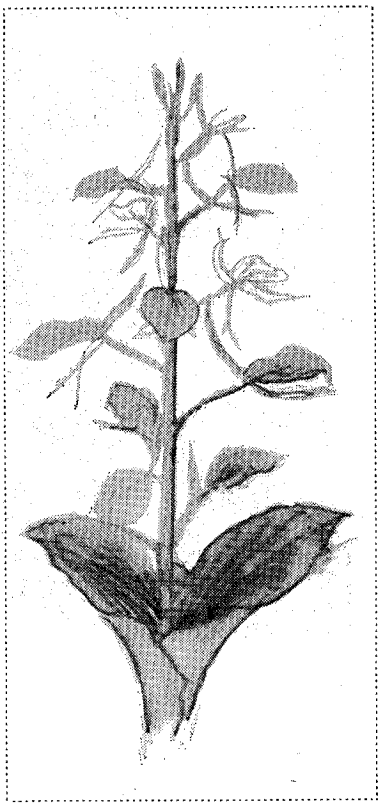
イエスの全生涯を通じて、平和は彼の口唇にまた心の中にありました。そしてイエスが最初に墓から出て来て、彼の弟子に現れた時に最初に挨拶した言葉は〝安かれ〟（ヨハネ伝二〇・二一）でありました。

救主によって教えられた平和は個人的な悩みから、家庭の騒動から、国民の暴動及び困難から免れることであります。そのような平和は個人にもまた社会にも言われることであります。平和でない人はキリストの言い付け、良心のささやきに真実でない者であります。人が肉体的な誘惑に負けて、感情または食欲に耽けることにより或は不信頼を以て義の律法を犯す時、人は自分自身の向上に不誠実であり、平和であることが出来ないのです。

律法を犯す者に平和はもたらされません。平和は律法に従うことによって、もたらされ、イエスが私たちをして人々の間に設置しようとしたメッセージはこれであります。―各人への平和は各人が神と共に平和であれるように、創造主と自分自身との間に完全な調和が存在するようまた、人が従属し決して逃れることの出来ない義の律法と自分自身との間に完全な調和があるようにとのメッセージであります。また家庭に在ってお互にまた隣人と平和に暮らす平和であります。

イエスの教えが今日の世に適しないと言うある人たちがおります。

わずか百年余り前に一少年は神を見、神の声を聞き、その教えを受入れたのであります。ジョセフ・スミスは救主を見てその証を世に与えたのであります。彼はそのメッセージを記録し、キリストの教えはキリストの時代の人々に真理であると同様に今日の文明世界にも適用される永遠の真理であることを強調したのであります。



キリストのすべての教えの根本は心に悪く思うことの罪であります。彼は貧る心、敵意、憎悪、嫉妬心を、それらの心からもたらされた結果と同様に激しく責めて居ります。

現代の心理学は、すべての学生が知っておるように、憎悪感を懐いている者の受ける害毒に就て証明しております。憎悪感を懐き、にがにがしく思っている人はその悪意を向ける相手よりも遙かに自分自身を傷つけられるのであります。

同様に今日の状態に適用出来るものは、人間の生命の価値と神聖さ、許容の徳、公正な処置の必要、偽善の犯罪、貪欲の罪、愛の救いの力、人の不死不滅などに就てのイエスの教えであります。

人々は若しやあの六億の強制された民と同様にキリストが私たちの主であり救主であることを拒み憎しみを以てその心を充たしてはいないであろうか？ 只にキリストを否定するばかりでなく、人々を利己心、わがまま、罪などのいやしい状態から、只イエスによって示された自己犠牲、寛容、美及び愛の領域に高める彼の使命をも否定してはいないであろうか。

若しや国民の大部分がキリストの名が〝わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていない〟（使徒行伝四・一二）ものであることを自覚することに失敗してはいないであろうか？ 若しや疑い深い人が、ガリラヤの人、復活したキリストは実に道であり、真理であり、生命であるということ、また彼は実に人類の救主であるという偉大な真理を得られるのを拒んではいないだろうか？

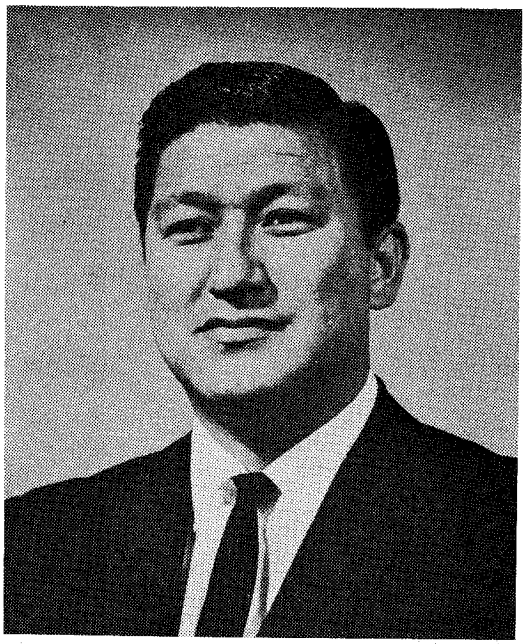
破壊的な努力と有害な陰謀は狡猾に秘かに人から自由意志を奪って、奴隷の境涯に戻そうとたくらまれておるのであります。

啓示された神の言葉に対する信仰を以て、真に個人の自由と尊厳を信ずるすべての人をして、キリストの精神的理想をいだかせ、すべての人類は自由であるという夢の実現に向わせ、何時か諸々の民は戦争でなく平和の為に、この地上に於ける神の王国の建設の為に団結するであろう目前の実現可能な理想に向わせようではありませんか。

イエス・キリストの御名によって、へりくだってお祈り致します。アーメン

愛する兄弟姉妹のみなさん

アドニー・Y・小松　伝道部長



あなたが今日在るのはあなたが過去五ケ年間に為した行為の結果であります。

あなた個人の人生に於てもしもあなたが学生であるなら、あなたが達成した学業は、直接あなたが学業に精を出したその努力によるものであります。

もしもあなたが事業家であるならば、今日あなたが達成している如何なる成功でも、それは過去に於けるあなたの計画勤勉、並びにあなたの責任にかたむけた努力によるものであります。

もしもあなたが今日お医者さんであるならば、それはあなたが過去五ケ年間、献身し学問してこの目標を達成したためであります。

教会の会員としてのあなたを、あなた個人の生活活動に比べる時、神に逢うための準備に、あなたはどれだけ進歩されたでしょうか?

アルマ書三十四章の三十二節から三十四節迄に言ってあります。

"現世は、人間が神に逢う用意をしなくてはならぬ時期である。現世の生涯は、人間が各々働きを遂行せねばならぬ時期である。

私が前にあなたたちに話したように、あなたたちに証を立てた人々は非常に多いので、私はあなたたちがこの世を去る時まで悔改めを引き延さないようにねんごろにすすめる。永遠の来世に行く準備ができるように私たちに与えられている現世の生涯の光陰を有益に用いなかったならば、後から夜のような暗やみの生涯がやってきてそこへ入ったら何の働きもできるはずがない。

あなたたちは、このおそろしい危機に陥ってから「私は悔い改めて私の神に立ち帰る」と言うことはできない。あなたたちは本当にこう言うことはできない。なぜならば、あなたたちがこの世を去る時あなたたちの肉体を離れる霊は、永遠の来世に於て再びあなたたちの身体に宿る力を持っているからである〟

神に逢う準備の根本的な律法の一つは什分の一献金であります。パプテスマと同様に誰もこの律法に従うように強制される者は居りません。また何れの律法にも従うことなくしてその祝福を受ける者は居りません。

教会の早期に予言者ジョセフ・スミスは什分の一のために人々はどれだけの財産を要求されるかに就て啓示を受けました。

教義と聖約百十九章、二節から四節迄に次の句が見られます。

〝こはわが宮居を建つるため、シオンの礎を置くため、神権を有てる者のためまたわが教会の大管長会の負債のためなり。

これを以てわが民が為す什分の一の始めとなすべし。

まずこれを為して後、かくの如く什分の一を納めたる者は、以後毎年彼らの得る全利益の什分の一を納むべし、これを以て、わが聖なる神権のためにする彼らの守るべき永久的定法となす、と主は言う〟

ヒーバー・J・グラント大管長は言いました。

〝私は末日聖徒たちに、主に対して真実であるようにと訴えます。そして私は、私たちの天父に対し真実な者には、平和と繁栄と財政的成功がもたらされることを約束します。何となれば彼らは律法を守り義務を遂行しているので天父は彼らの行いを祝福するでしょうから〟

什分の一の律法は実行する者たちのためになるものであります。忠実に什分の一の律法を守る人には大きな報いがもたらされます。私たちは教会に忠実に献身し、教会の末日の働きと共に歩んで居ります。

神殿、学校の建設、伝道の働らき、教会の福祉計画、未亡人、孤児、及び貧しい人の世話などであります。

デビド・O・マッケイ大管長は言って居ります。

〝什分の一律法を守ることは霊的力が落ちない根源であります。真実に不断に、この律法に従うことは、他の如何なる福音の原則よりも霊的な成長を私たちにもたらします。人は屢々自制し、個人的な欲望を差控えて生活することを余儀なくされますが什分の一献金は克己心を成長させるものであります。このようにして利己心は、無私の他人に対する愛によってとりかえられるのであります。

今日、あなたが教会内で活潑な会員であることは、あなたの、主に対する忠実な献身の結果であります。あなたの持っている証の程度は、教会の活動に於けるあなたの積極的な参加に直接結びついておるのであります。

私は皆さんが什分の一の律法を守って霊的及び物質的両方の生活に必要な祝福を当然授けられるようになれますように望み且つ祈って居ります。

ハワイ神殿の祈り

1919年11月27日

ヒーバー・J・グラント大管長

永遠の父なる神よ。われら汝の僕たち及び侍女たちは汝の愛する御子、イエス・キリストの御名により、全心全霊を以て、今日この美しき土地に、生ける神の神殿を至高者の汝の聖名に献納する式に参列する特権を感謝する。

永遠の父なる神よ。われらは汝と汝の御子、イエス・キリストが少年ジョセフ・スミス（初代）を訪れ、彼が汝と汝の愛する御子に命ぜられたること感謝する。

われらは汝が汝の僕、バプテスマのヨハネを遣わし、彼がジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリの頭に手を按いて、彼らをアロン神権または小神権に聖任したことを感謝する。

われらは汝が主イエス・キリストの使徒たちであり、救主と共にまた彼が十字架にかけられて後に伝道した汝の僕たちペテロ、ヤコブ、ヨハネを遣わし、彼らが汝の僕たちジョセフ・スミス及びオリヴァ・カウドリを主イエス・キリストの使徒に聖任し彼らに聖なるメルケゼデク神権を授け、その権能と使徒職により、われらが今日この聖なる建物を汝に献納することを感謝する。

われらは汝に汝の僕たち予言者と祝福師、ジョセフ・スミスとハイラム・スミスの廉直と献身に対し感謝する。

われらは汝に彼らがイエス・キリストの福音が回復された時から、その殉教の日迄彼らの全生涯を捧げて働らいたことを、彼らの証を彼らの血を以て結び固めたことを感謝する。

われらは汝に、汝の僕たち、ブリガム・ヤング、ジョン・テーラー、ウイルフォード・ウッドラフ、及びジョセフ・F・スミスが汝の僕ジョセフ・スミスが殉教した後、各々汝の教会の頭に立ち、汝の聖きみたまの霊感によって汝の民を導き、指揮し、またその代表者を世界に遣わして永遠の福音をほとんど全世界にわたって宣言させたことを感謝する。

われらは汝に、この末日の神権時代における忠実なる大管長会員たち、十二使徒たち、及び教会幹部たちのゆえに感謝する。

おお、われらの永遠の父なる神よ。われらは汝が教会の大管長会、汝の僕、ヒーバー・J・グラント、アンソン・H・ランド及びチャールス・W・ペンローズを祝福し、彼らが日夜汝の聖きみたまによって正しく導かれんことを、また彼らが切れることなき三つよりの綱のごとく一体となって、この地上にイエス・キリストの教会を建てるために、すべてのことに協力できるよう祈り奉る。

おお 父よ、各々のそしてすべての使徒たちを、大祝福師を、七十人会最高評議員会をまた管理監督会を祝福し給え。

汝に乞い願う。すべてのシオンのステーキ部、及びワード部また教会の支部を管理する者たちを祝福し給わんことを。

全世界にわたる教会の伝道部を管理する者たちを、世界の人々に、再びこの地上に回復された救いの計画を宣べ伝えに行った、すべての汝の僕たち及び侍女たちと共に祝福し給え。

おお 父よ、シオンの地において、聖なる汝の名に建てられたる神殿を管理する者たちを祝福し給え。また北はカナダ南はメキシコ迄の地に建てられたる教会の学校を管理する者及びその中で働らく者たちを祝福し給え。

おお 神よ、汝の僕ジョセフ・F・スミス大管長及びジョージ・Q・キャノン副管長によってハワイの地に遂行された素晴らしき働きのために喜び感謝する我らの心を受け入れ給え、われらは彼らの福音及びこの地の人への献身のゆえに汝に感謝す。われらは、汝が汝の僕J・H・ナペラ長老を育て、この献身的なハワイ人が汝の僕キャノン部長を助けてニーファイ人、レーマン人、及びジェレド人の神聖な歴史、モルモン経を翻訳したことを感謝する。われらはモルモン経の含まれたる金版が翻訳され、予言者ジョセフ・スミスへの汝の言葉が成就されるために、即ち〝レーマン人たちがその先祖の知識に至り、主の約束を知り、福音を信じてイエス・キリストの恵みに頼り、主の御名を信ずる信仰に栄光を受け、その悔改めによって救われるために〟保存されたことを感謝する。

われらは汝にこの恵まれたる地における数千、万のリーハイの子孫たちが、福音を知り、彼らの多くが生涯、忠実に耐えたことを感謝する。

われらはわれらの父にしてわれらの神なる汝に、福音を受入れ福音に生活しているこれらの人々が今やこの聖なる宮に入り、彼らの先祖の霊を救う特権を持ったことを感謝する。

われらは汝に、汝の愛する僕ジョージ・Q・キャノンの未亡人、汝の侍女なる、サラ・ジェン・キャノン姉妹が、今日われらと共に、ここに出席し、この献堂式に参列できたことを感謝する。

おお天にいます父よ。われらは汝に、われらの家族、友人親戚及び汝がわれらの上に授けたるすべての多くの祝福の故に感謝する。

われらは汝にこの末日の神権の時代に建てられたすべての神殿のために感謝し、この内に務めるすべての人に汝の豊かな祝福があるように祈り奉る。われらは、すべての神殿の内に在ると同様の、気持よいみたまが、この聖なる宮居で働らく人の上にもあるように祈り奉る。

おお　父よ。われらは汝に、汝の予言者ブリガム・ヤングによって、汝の僕ウイリヤム・W・クラフに夢でなした約束、〝時来たらば神殿がこの地に建つであろう〟が今日われらの眼前に成就したことを感謝する。

おお神よ、われらは汝に、汝の忠実にして勤勉な僕、ジョセフ・F・スミス大管長がこの地にいた時に一九一五年の汝の僕ブリガム・ヤング大管長の誕生日に霊感されて、至高者神への神殿を建てるため、この地点を奉献したことを感謝する。

われらは汝に、この多くの年月の間、この伝道地を、かくも忠実に管理した、汝の僕、サムエル・E・ウーレイ部長の長い忠実な勤勉な働らきを感謝する。

われらは汝にこの神殿を建てた彼の働らきを感謝し、汝が彼及び彼に協力したすべての働き手を祝福し給わんことを乞い奉る。

おお父よ、われらは汝に、汝の愛する僕ジョセフ・F・スミス大管長の息子、現在ハワイ伝道部を管理しているE・ウエスリー・スミスを祝福し給わんことを祈る。伝道のみたまが常に彼と共にあるように、また彼が亡き父がこの地の人々に懐いていたと同様の素晴らしき愛を持てるように。

おお、われらの永遠の父なる神よ、われらは今汝に、この美しい神殿及びその建てられている土地を感謝し、この土地及び建物を、その内に在るすべての設備道具、その土台から屋上迄に含まれているすべての物と共に、われらの父にしてわれらの神なる汝に献納する。そして、へりくだって祈る。おお永遠の父なる神よ。それを受入れ潔め、汝のみたまを通じて、それが建てられたる聖なる目的に聖別し給え。

（つづく）

次回ハワイ神殿訪問予定者に告ぐ

伝道部系図委員会々長　渡部正雄

次回ハワイ神殿訪問も一年余りに迫って来ましたので訪問予定者は今からよく準備されるようにお願い致します。

一、今年中に各人が十名以上の死者（本人と同性）を含む、ファミリー・グループシート（日英両文）を伝道本部系図委員会会長、渡部宛送付すること。

尚次回の予定者でなくてもすべての会員が六月末迄に、最低一枚の系図と三枚のファミリー・グループ・シートを提出されるように期待します。

二、次回予定者で日曜学校系図のクラスに出席していない人は直ちに系図のクラスに変更出席すること、できれば MIA 系図のクラスにも出席してシート作成を促進すること。

三、前回訪問者がいろいろ準備のために配布されて持っている資料を見せてもらいまたいろいろ参考になる話を聞くこと。

四、日本系図探求要覧は勿論、日曜学校の系図テキスト〝シオン山の救手たち〟及び〝家族の昇栄〟を必ず一回は読むこと。

五、その他聖徒の道に今迄発表された系図資料また今後もできるだけ参考資料を発表しますので必ず眼を通すこと。

六、尚不明または不審の点があったら遠慮なく伝道本部、渡部宛に御質問下さい。

よく教会の教義、神殿の儀式の意義に就て勉強して行かないと切角神殿に入っても完全充分な証を得ることができませんから千載に悔いを残すことになります。

光陰矢の如しと言いますが一年半などは瞬く間にたってしまいます。どうぞ今日から準備を始め完全な準備をして行かれるように望んでおります。

各支部昨年神殿訪問者及び各支部系図委員の皆さんが予定者の準備に常に御協力されますよう希望します。

追伸　各支部系図委員は本部より既送の四半期報告用紙に記入の上必ず期限内に本部渡部宛提出して下さい。

支部だより

北から南から……

京都支部

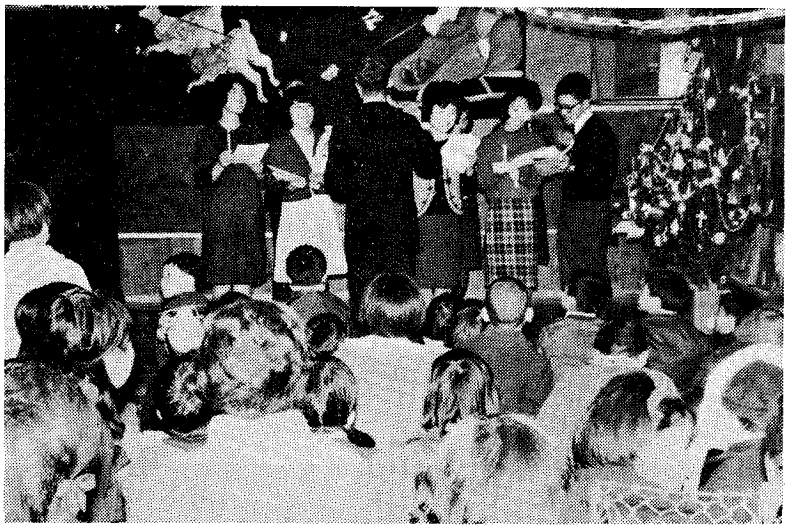
旭川から那覇まで数えて二十九支部!! モルモンの支部多しといえども、日曜日にペイジエントを行った支部は京都が日本で初めてではないでしょうか? 安息日にペイジエント? とまゆをひそめる方々……どうか御安心下さい。海の向う側では、クリスマスペイジエントはいつも日曜日に行われるそうです。理由はなるべく多くの一般の人々にもキリストの喜こばしき御降誕をお祝いしてもらうためですが、京都支部においてもその目的を完全に達成することができ、多くの会員、求道者、一般家族を招いて十二月十九日の第三日曜日に幕あけをすることができました。そもそも京都支部のペイジエントのオリジナルは非常に古く、今現在ハワイのチャーチカレッジで音楽を専攻されている佐々木姉妹が残されていかれた忘れがたみを翻き直して、行っているもので、もう支部の古い会員にとっては公例の行事の一つとなりキャリヤも横綱級で安心して見ていることができます。もっとも中には一オクターブぐらいずれてソロを歌って、けろっとしている強心臓の〇〇兄弟や、ドテラをさかさまに着て、フロシキを頭にくくりつけ牧人よろしくさっそう? と現われた片山支部長……イエス様の休んでいらっしゃる神聖な〝まぶね〟の中に贈物をぶち込んだあわて者の博士達……腹をかかえたくなるような珍事が多く起りましたが、バックのコーラスの猛ハッスルのおかげで素晴しく霊的な雰囲気の中に終りました。そして余りの素晴らしさに会員も実際にこの世の中に救い主イエス・キリストが誕生し今なを生きておられることを霊的にはっきりと感ずることができ胸いっぱいに満たされた何物かに強く心を動かされました。こうして京都支部のクリスマス週間の幕は切って落され二十三日はMIA主催クリスマスパーテー、二十五日はダンスパーティと華やかに開催されました。

二十三日 京都支部に待望の? ビートルズがやって来ました。といっただけで心臓の方は余り丈夫であらせられない支部長は、おっかなびっくり卒倒寸前でしたが御心配なく、これは茶目っ気たっぷりの宣教師たちが集ってのオハコ大会で御披露して下さったプログラムの一つです。日頃、借りて来た猫のように大人しい宣教師六人が総動員!! レコードによるバックミュージックに合せ、迷演技? よろしく舞台せましとあばれまわったのには、いささか驚嘆!! 全く奇しきみわざでした……

〝愛して愛して愛しちゃったのよ〟と即席マヒナスターズで替え歌を歌ったのが支部長会何ごとかとじっくり聞いています と〝支部長だけを愛して愛して愛しちゃったのよ〟とのこと、やれやれ全く思わせぶりな歌もできたもんです。姉妹でなくって、いささか残念そうな面持の支部長さん……でも今年も忠実な部下のおかげで、どうやら御安泰のようです。次は公例のプレゼント交換会、参加者全員が五十円程度のプレゼントを持ち寄ってそれをデイスキン長老のサンタクロース(バストとヒップにザブトンをつめ込んだ着ぶくれのすごい姿で)が、ころげるような体つきでホールに入って来て袋よりおもむろに取出し配りました。そのプレゼントの中のメッセージを一つ御紹介……〝このハンカチを手にした男性は私の恋人です。二十五日のダンスパーティには必ずこのハンカチを貴方の背広の胸ポケットに入れて下さい。それが私たちの目印です。私は貴方と一晩中踊り明すでしょう。これを受取った世にも幸せな男〇〇兄弟はその夜一晩ねむれなかったとか……このいたずらの主……支部長会の〇〇兄弟……あとでこっそりと彼に打明けたとか……こりゃあちょっと悪趣味が過ぎませんかね。二人とも腹をかかえて大笑い。まあ京都支部とはこんなに面白い連中の集ったところ……いちど京都シオンにもお暇な節は皆さんどうかお揃いで、お越やす。

岡山支部

岡山支部は支部長を中心にしていろいろな計画を実行してまいりました。ですから岡山支部



はいろんな面で西中央地方部の注目の的です。十一日の大会には一人でも多くの人を大会に出席させようと、宣教師が英語会で費用を作ってくれたりして、岡山支部はじまって以来の出席者数でした。楽しい思い出といっしょに皆さんが証を強めて帰りました。

十二月に入ってからはクリスマスプログラムをＹＷＭＩＡ会長の西岡姉妹を中心にして計画され、クリスマスキャロルの練習から始めました。そして、本番の二十四日の夜は自転車で病院や孤児院を訪問し、力いっぱいキャロルをしました。

アメリカからサンタクロースがプレゼントを持ってやってきたので、子供たちは本当によろこび、本当にサンタクローズがいるのだと、目を輝かせていました。前の二十三日のクリスマスパーティーは沢山の人たちが参加し、ＭＩＡで準備したコーラス・ゲーム、演劇などですばらしい一夜をすごしました。若くとも強い証しの会員たちの力によって、一歩一歩岡山支部は発展しています。

山上の垂訓を読んでその感想文や、証を提出し、私たちの一年間に結んだ実を「よい木から良い実を」という雑誌に編集しました。支部長はその中のはじめにあたって、次のように書いています。

新年を迎えて、二日は安息日三日は、必ず家族の人か友だちをつれて出席する新年パーティ四日は扶助協会の慰安会（これは扶助協会の発展と一人一人が良い姉妹になるようにと、祈ってジュースで乾杯）、六日はＭＩＡ計画でスケートリンクへすべりに行きました。九日は支部大会とすべり出しは上々です。

今は磯村支部長は転勤され、山田支部長のもとにみんながチームワークよろしくガンバッテいます。

二月号「支部訪問記」後読感

〝ただいまマイナス三〇度〟の安田支部長さんの素晴らしい記事を息もつかずに読ませていただき、また見事な写真を見せていただき感激感謝の余り一筆とらせていただきました。

支部長さんを中心に、完全な組織を以て一体となった誠に平和な一家庭である支部の、各方面における活動状況が手にとるように見えて、いろいろと教えられ励まされましたことを深く感謝致します。特に活発な神権定員会の活動は、立派な模範を示して下さり、大きな刺戟となりました。また用意周到なバザーの計画と実行、着実な収益に支部の経済的な基礎と会員の証を強められ誠に祝福された支部だと嬉しく思いました。

恵まれて旭川支部で伝道していた二男が昨年秋甲府に転任になって来たので「旭川の冬将軍にあわないでよかったな」と言った処「いやもっといたかった、旭川支部は素晴らしい支部だもの」と答えたわけが今はっきりわかりました。

〝また見しに、視よ白き馬あり、之に乗るもの弓を持ち、かつ冠を与えられ、勝ちて復勝たんとて出でゆけり〟（黙示録六・二）

ハワイの神殿に行かれた安田兄弟御一家が最先端でがんばっておられる姿に深く感謝しております。

〝勝を得る者は斯のごとく白き衣を着せられん、我その名を生命の書より消し落さず、我が父のまへと御使の前とにしてその名を言ひあらはさん〟（黙示録三・五）

渡部正雄

私は信ずる

神権により救わる

丹羽三吾（東京北支部）

私の祖父は、従弟である当時京都の比叡山延暦寺の管長の赤松光堂二百二十三世と共に、輪王寺の宮を奉じて、上野黒門の戦いに官軍として参加し、敗れた幕末の士である。捕われて蟄居し、閉門させられて家は没落、千八百石の領地と大津にあった屋敷は共に兵火に消失してしまった。現在は一条公の筆による石碑が立つのみで、労働基準局の建物が立っている。

従って系図を調べるのに大変骨が折れ、郷土史研究家の手を借りたり、親族に問い合せたりで、最近になってようやく、糸口を見つけたような訳である。せめて会員になるのがもう十年早ければ、もっと多くの先祖を救うことができたのにと、残念でたまらない。

会員になる前の私は、酒、煙草は座から離したことがなく、深酒を父からよく注意されたものであった。父は私とわちがって一滴の酒も飲まず、茶の湯と禅を愛した風流人であった。そういう父だから晩年になると君子の風格があったように、子である私でさえそう思えた。借むらくは、生前にバプテスマを施すことができなかったことである。

私の父のように真の福音を知らずして死んでいった人も数多くあろうが、現在生を受けているものでさえ、福音を知らずして生きている人々が多いことを意識しなければならない。また私たちは親子兄弟家族の模範となって、彼らを正しい道に入れねばならない。証の上に証を積んで、あくまでも前進して自己の身辺にシオンを建設する使命があることを、私たちは忘れてはならない。行を行い苦を踏み越え、踏み越え、神よ我らに試練を与えたまえと、祈らなければならない。

教義と聖約第九十八章に神は忠信なる者たちに、規則に規則を加え試命にいましめを加えん斯くして汝等を験すべし、とある。しかしなかなか神の王国を建設することは、むずかしいことである。しかし私は奇蹟は必ず起るものだと確心しておる。

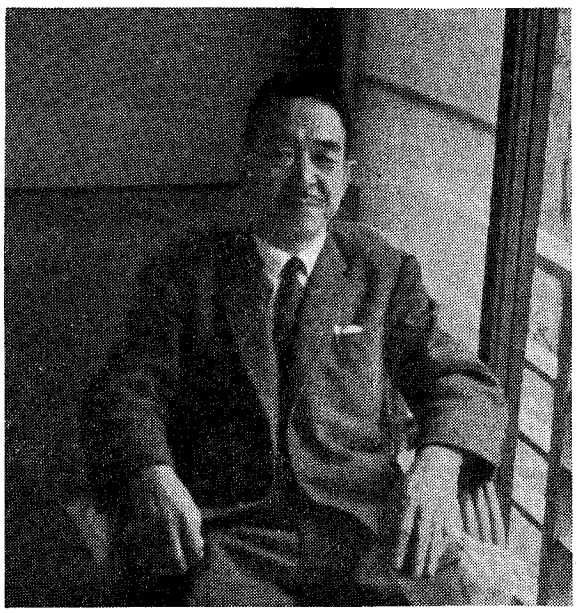
約八年前のこと、若くて見も知らない日本人と、アメリカ人の宣教師が年老いた婦人を訪ね福音の必要を説いた。そして彼の夫は相当のガンコ者だったのでその婦人は、夫には知らせずに一人で家庭集会を受けていた。これが現在の私の妻である丹羽姉妹である。彼女は故郷で生長の家の白鳩会の会長を勤めたこともあり、上京後多忙を極めてはいたが、折を見て生長の家の講義を聞こうとしていた。その矢先宣教師の訪問を受け福音に接する機会を与えられたのである。

私はとみると、妻が家庭集会を受けているのを知ると、妻にアメリカの宗教は害あって益なしだから止めておけ、とそうやかましくいっていたものである。しかし、そうはいってみたものの、彼らの言葉を聞くともなく聞いていたら、職業的牧師でないことや、また知恵の言葉やそして彼らの熱心さや、いろいろなものが頭のなかに入ってなかなか離れなくなっていた。

いよいよ大晦日の日に宣教師たちが訪問して、正月元旦にバプテスマを施すと告げに来ました。しかし私は相変らず毎夜晩酌をやるし煙草も止まりません。時には宣教師の前で、煙草を取り出しそうになったことさえあった。そういう訳でバプテスマは姉妹一人だけが、先に受けることになり、私はあとに残されてしまいました。

ところが不思議なことに、戦

証詞



争中爆弾が落ちても防空壕に入らなかった自分が、なぜか急に不安になりはじめた。そして、この機会をのがしたら、人生の終りになるのではないか……とそんな気持にさえなってきて、姉妹に宣教師に頼んでくれと言い縋るように頼んだ。この宣教師ははじめ二人で相談していたが、今にして思えば按手礼のことを相談していたのであろうと思われる。そして二人の宣教師から按手礼を受けた。するとどうでしょう、約四十年間病気の時も、父母の死去の折も止めようとして止まなかった酒とタバコがピタリと止ってしまった。

あの大晦日のあの忘れられない神様の力で、アル中もニコチン中毒も一瞬にして消えた。そして二度と再び欲しいと思わなくなった。兄弟などは三日も保つまいなどといっていたが、しかしイエス・キリストの跛を去した奇蹟が行なわれたのを自ら体験し得たのである。イエス・キリストを信ずる信仰はこんなに素晴しいものであることを知り、神様は生きておられ、私のようなものまで救ってくださるのを身をもって体験したのであった。

ベルグソンは力強い言葉で次のようにのべています。「我々は歴史に於ける無意識の『要因』の存在を信じない、近ごろ盛んになった人々の口にする偉大な地下の思想の流れは、大衆が彼らの仲間のうちの一人、もしくは何人かに動かされたという事実の結果として、始めて流れ出すのである。社会の進歩はその歴史の時期に於ける社会の精神的情況によって、おのずから少しづつ除々に起ると主張しても無駄である。それは本当は、社会が実験を試みる決意をしたときに、始めて行われる飛躍的前進である。このことは、社会が確信を与えられたに相違ないということ、あるいは少なくとも揺り動かされたに相違ないと意味する。そしてこの動揺を与えるのは、常に誰かある個人である。

先鞭は付けられている。常に実践に扱っている人々にアピールすることこそ、必要だ。

伝道することは、神に対する只一つの恩返しに外ならない。あのハワイ神殿での崇厳な憶い出として、前述の父も母も、祖父もみな私の身体で死者のバプテスマを済ませていただきましたが、まだ探究は数多く残っている。人間としての勤めである系図の探究と記録の整理はわれわれに与えられた命である。

神様は、また私たちにすばらしい伝道部長を与えてくださった。彼のいつも微笑を浮かべた御顔がなつかしくなるが、未だお話する機会も恵まれないで、そのうちにと心に決めている。

憶い起すことは、芥川竜之介の愛唱した詩に「君双眼の色を見るに不語共愁無きに似たり」がある。祖国日本を神の王国になさんがために働き抜こうではないか。今の日本の人々は生活に追われ不景気におびえて心も上の空だが、神の言葉こそこういう時に必要である。私たちのような環境にあった中年以上のものが非常に喜びをもって、福音を知ることができたのも、恵みであるが、願くば全人類の人々の口上にこの恵があらんことを祈らずにはおれない。

すべてをイエス・キリストの御名によって申し上げた。

伝道本部だより

一九六五年十二月

バプテスマおめでとうございます

阿倍野
ハヤセ　クニコ
タカイ　マツオ
オカジマ　タカコ

旭川
アネタイ　タケオ

福岡
ホダテ　ヨシコ
コハラ　シュイチ
マツオ　ヒデアキ
ナカムラ　カツユキ
ノダ　トシオ
タオキ　カツヒロ

普天間
WEIDINGER Micheal Shoji

広島
サイトウ　ショウジ

金沢
フジイ　フミヨシ
キタオ　カズキ
ハヤカワ　タカノリ
ハヤカワ　ツタコ
キドクチ　ツトム

甲府
タマヤ　アキオ
シオジマ　アヤコ
トネガワ　ヒデキ
アシザワ　ヒロミ
フルヤ　エイコ

京都
カマダ　ミチコ
イナバ　ヨシエ
シオミ　カヨコ
シオミ　カズオ
シオミ　ヤスオ

松本
ミヤサカ　ミツコ

室蘭
オタニ　タイコ
テラオ　キヌコ
テラシマ　ウキコ

名古屋
オノ　トシオ
ワカノ　ソウゴ
コジマ　カヨコ
ナカムラ　ミチコ
コジマ　フミコ

那覇
イケイ　サチコ

新潟
ハマダ　エイコ
ミヤザワ　ショウキチ

西宮
ハラダ　タカミ

岡町
モリヤ　カンジ
ワタナベ　ハルヒデ
ワタナベ　ミサコ
ヨダワラ　キヨカズ
ヨダワラ　キクエ

三の宮
オトモ　ケンイチ

札幌
イチカワ　トシヒロ
イガ　ノリユキ
タカヤ　ウメオ
サド　ジロ
ノダ　ヒサシ

仙台
クギモト　ヒロマサ

東京中央
ササキ　トシコ

TSAI, Hsi Chang

東京東
イシズカ　ハジメ
タカサキ　フミオ
トリイ　ヒデカズ
ホシノ　ヨコ

東京西
マチダ　エイゾウ
モリ　チカコ
オオウチ　スミコ
シミズ　エイコ
イシダ　スガコ
ソジモト　ヤスアキ
スガノ　オサム
ツダ　マサヒロ
サト　ヤスコ
ヤマグチ　アキラ

山形
コバヤシ　ヨシアキ

横浜
タカシマ　マサミツ

神権昇進おめでとうございます

阿倍野
イマイ　ヒロフミ（祭）

福岡
ナガハマ　オサム（祭）
タダ　シゲカツ（祭）

広島
ノボル　タケシ（教）
ナカノ　キヨシ（執）

京都
ウノ　ヒロシ（長）

室蘭
スガノ　フミオ（祭）
ヒラバヤシ　ミツオ（祭）

名古屋
ナガヒサ　エツロ（教）

岡町
イワマ　クニヨシ（長）
ミゾウチ　トシオ（長）

岡山
コマツ　タダシ（祭）

三の宮
オリト　カツミ（長）
コガ　マサミ（執）

札幌
カワイ　ヤスオ（祭）
マルカワ　マサヒロ（祭）

東京中央
ヤマダ　ヤスヒコ（執）
エンジ　アベ（執）

東京西
シライ　マサアキ（執）
シライ　マサユキ（執）
ササキ　コイチ（祭）

東京西
シミズ　ノブオ（祭）

山形
タカハシ　アキラ（祭）

柳井
タカグチ　ミツヤス（長）

横浜
コスゲ　ヤスオ（長）
ニシマタ　ヨシタキ（長）

まことの教会のしるし

1965年ニューヨーク世界博覧会のモルモン館に展示されたものです

山田五郎　訳

その1　啓　示

神とこの地上に住む神の代表者との連絡、交通は常に真の神の教会にともなうしるしとされてきました。主は、エデンの園においてアダムと共に歩み共に語りいろいろの事柄に関して、旧約の時代より予言者を通して教えと指示を与えられました。エノク、ノア、アブラハム、ヤコブ、モーセ、ダビデ、イザヤ、ダニエル、そしてマラキも旧約の予言者たちは

主はダマスカスコの近くでサウロに呼びかけられた。

「突然、天から光がさして、彼をめぐり照らした。……その時『サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか』と呼びかける声を聞いた。（使徒行伝9・34）

皆な主の導きを受けました。予言者アモスはこの偉大な事実を「まことに主なる神はそのしもべである予言者にその隠れた事を示さないでは、何事もなされない」（アモス書三・七）とのべています。ソロモンはこのことを更に強調して「予言がなければ民はわがままにふるまう（滅びる）」と教えています。

主イエス・キリストでさえ常に父なる神からの導きを必要とされ神に求めそして導かれていました。ヨルダン川で受けたバプテスマの時と変貌の山での二回にわたって父なる神は独り子を証詞して天から語られ「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」（マタイによる福音書三・十七、十七・五）といわれました。イエスの死後も新約聖書に書かれている時代に、主は引き続き御意志を人々にお示しになりました。使徒の欠員補充にあたって主は導きを与えられ、ダマスカスの途上にあったサウロと語られ、人々の慰め主としてまた啓示を受けるものとして約束の聖霊を送られました。更に黙示者ヨハネに多くの真理をお示しになりました。いつでも真の福音があった時に、神は予言者を通して導きを与えてきました。

モルモン経の予言者モロナイは「神から授かる啓示を否定し、啓示はもはや廃止されて啓示も予言も……ないと言う人々よ……よく言っておく、これらのことを否定する人々は、キリストの福音を知

らず、聖文を続んだこともない……神は昨日も今日も、いつまでも同じにましまして変ることなく、また変ろうとする様子も見えないことは聖文にいってあるではないか。」（モルモン書九・七、八・九）予言者ニーファイは『「われはすでに神の言葉を受け、もうこれで充分であるからこの上神の言葉は必要でない」という者は禍である。ごらん、主なる神は仰せになる「われは言葉に言葉を加え、誡命に誡命を加えて、これを世の人に伝え、ここにも少しく教え、かしこにも少しく教えん。故にわが誡命を守りわが勧めに耳を傾くる者は智恵を得るによりて幸福なり。われは受くる者に一そう多く与えれども、われら充分なりと言う者よりは、その持てるものさえも取り上ぐべし」と。』（ニーファイ第二書二八・二十九、三十）

主が建てられる教会は啓示と言う岩の上であるとイエスはペテロに言われました。（マタイによる福音書一六・一七、一八を参照）

末日聖徒イエス・キリスト教会は岩の上（啓示の上）に建てられました。少年ジョセフ・スミスの熱心な祈りに答えられて神は御子イエス・キリストと共に光の中に現われました。この奇しき示現を受けて後、ジョセフ・スミスに聖なる導きや、訓誡や霊感のみでなく、天の御使が直接訪れました。ジョセフ・スミスを通してすばらしき真理の福音は完く、か

つ聖く、回復されました。しかし、完き福音は予言者ジョセフ・スミスにより回復された後も啓示は必要でしょうか？歴史を通して、おそらく悩みや問題の多い今の時代程神の導きと助けを必要とする時代は他にないでしょう。世界情勢は緊張を増し家族のきづなは弱体化し、人間は日一日と自からの崩壊へと進んでいるように見えます。今全世界の人々に重大ニュースとして伝えられなければならないことは「神が再び人と語りたもうた」と言うことにほかならない。

義と愛の神は歴史上最も危険な時に子供たちである私たちを見捨てるようなことがありましょうか？

末日聖徒イエス・キリスト教会は全世界の人々に、啓示は廃止されていないこと、天は閉ざされず主は今の世の人々にお現れになり、主の真の教会はこの地上にあり常に生ける予言者を通して導かれることを証詞するものであります。

予言者ジョセフ・スミスを敵視した人々は彼の死が教会の終りを意味すると考えました。そして教会員たちは無慈悲な暴徒たちに殺され、住む家を追われてしまい、多くの人々はおそらく荒野で絶え果ててしまうと思いました。しかしながら霊感による指導者、他の予言者、主が予言者ジョセフ・スミスの後継として備えられたブリガム・ヤングの導きにより人々は幌馬車や手押車で、二千キロにおよぶ未知の荒野や、大草原を安住の地、ロッキー山脈の真中に求めて行きました。

聖徒たちは誰れも欲しない荒れ地に行きました。しかしある人はゴールドラッシュにわくカルフォルニヤへ行くように願いましたが、予言者である指導者は断固として、ソルト・レークの谷へ行くべく示現を数年前に見たと申しました。いざ着いて見て土地は耕作には堅いと見るや開拓者たちは谷川の水を取り入れてアメリカの近代の灌漑の第一歩を踏み出しました。

やっと実のりがきた時、イナゴの大群に悩んだが、古代イスラエルにおいても得られなかったような奇蹟が起り、大陸の塩水湖にカモメが現われイナゴを撲滅しました。荒れたソルト・レークの谷で聖徒たちは、インデアンやうえや病い等におびやかされながらも、霊感ある指導者の指示により困難に打ち勝ちました。

ブリガム・ヤングは「私が聖徒たちをここえ導いたと思ってもらいたくない。全能の神の備えたもうたことをしたまでだ」といいました。

農業から工業へと時代が変り、多くの失業者であふれた時に、教会の指導者は福祉事業を設立して助けを必要とする人々が、悪に落ち入らないようにするための霊感を受けました。

教育に関しても早くから重点を置きました。今日の科学により否定できないタバコの害も、百三十年も昔から神の啓示として「智恵の言葉」を守っています。

世の中が次第にレジャーを求め若い人々の心をとらえようとすると、教会の指導者は霊感を受けて若い人々の活動組織を作りました。家族のきずなに危険がせまると、家族の夕べのプログラムを推進させて、マッケイ大管長は「いかなる成功といえども家庭の失敗に勝るものはない」と言われました。このように常に機敏に動く末日聖徒イエス・キリスト教会に感心したある人は、「宗教の原則」を破らずしかも時代にそって行く能力に感心するといいました。教会を導く予言者に啓示があればこそであり、教会員一人一人に自分の生活上の導きがあるからです。啓示は真の神の教会のしるしであります。

天使は神殿でザカリヤに現われた。

すると主の御使が（ザカリヤに）現われて、
（神殿の）右に立った。

（ルカによる福音書一・十一）

権能

その2

イエスがこの世においでになった使命は、人類に不死不滅の生命を与えるためであったのであります。自からの受難と復活により、不滅への道をふさいでいた『死』を乗り越えて、人類に不滅をもたらしたのであります。イエスは三年の間庶民に生命への道を教えられました。そして、神の力と権能とを持って伝道をなさいました。短かいこの世での使命を終えた時イエスは御業を続けるべき人を選ばれました。（ヨハネによる福音書十五章十六節を参照）イエスによって選ばれた人たちは使命だけが与えられたのではありませんでした。聖書は「そこで十二人をお立てになりました。彼らを自分のそばに置くためであり、さらに宣教につかわし」（マルコによる福音書三・十四）また、「それからイエスは十二弟子を呼び集めて……力と権威をお授けになった。また神の国を宣べ伝え……（ルカによる福音書九・一、二）聖書には更に王国を設立するにあたりイエスが組織されたありさまと、イエスがこの世を離れた後も神の御業を続けて行くことができるように権能をお与えになられたとしています。キリスト自から頭となって（エペソ書五・二十三）教会を組織され（マタイ十六・十八、十九）使徒をはじめとしてそれぞれの責任をきめて聖任なさいました。（マタイ十六・十五、ルカ六・十二～十六、エペソ四・十一～十四、ヨハネ二十一・十五～十七）十二使徒の召しの一つには、キリストに対する特別な証詞人であるということもありました。しかし、多くのクリスチャンは、使徒たちはイエスの在世中を知っていたから特別な証詞人であり、使徒たちが死んでしまえばもう使徒はいなくなると思っていました。けれども、使徒たちはそうではなく主の導きにより欠員をおぎなって行きました。事実マシアスはユダに代って使徒に召された人であります。（使徒行伝一・二二―二六）使徒に選ばれた記録はないが使徒行伝十四・十四に記されているようにバルナバとパウロは使徒に選ばれたことが解ります。パウロは手紙を送るに際して、初めに自分を紹介して「私は救い主なる神と、わたしたちの望みであるキリスト・イエスとの任命により、キリスト、イエスの使徒……」（コリント人、テモテへの手紙等参照）と言っています。新約聖書の教えを通して、イエスは使徒たちに教会を管理する権能と許しとを与えられたことが解ります。現在多くあるキリスト教会を見て比較するだけで、組織が変ってしまったことが解ります。ここで重大な質問は、組織を動かす権能はどうなってしまったのでしょうか?」ということです。教会を治める権能は神権の力によってなされます。そして神権とは、「神の御名によりて、神に代って義しく行う人に与えられた力」と解り易く定義できます。

使徒パウロはテモテに指示を与えた

人がもし監督の職を望むなら、それは
良い仕事を願うことである。

（テモテへの第1の手紙3・1）

べてみると悲しい事実を見せつけられます。例えば教会が政治的便宜となりクリスチャンでもない人に教会が治められ、また教会の役員を任命する責任を持っているというのです。使徒にとって代わり自分が教会の長となるために同じような立場にある人とせり合い、啓示のもとに決められなければならない教義上の事柄を、討論して決めようとしたり、そして、もっと大切なことは、これらの人々は自から啓示を拒み、もはや啓示は廃止されたと主張するので、彼らには啓示を受けることができないのです。これらは教会から権能を取り止げられてしまった大切なしるしであります。十二使徒のように主から導きや指示を受けていた人たちは、啓示の必要性を否定することがないでしょう。

心ある人は教会のありかたに疑問を持つようになり教会の内を正そうと(改革)しましたが、かえってとがめられてしまい新らしい派を作りました。ところが権能と言う点に於いて疑問が生じて来ました。

新らしい派を作る前の教会は、ペテロから時代を重ねて権能が受け継がれてきたと主張しています。が、これが事実だとすれば、改革者たちの建てた教会は土台がないことになります。そこでこのジレンマを解消するために、神の権能の必要性をにごらせるより手段はなく、そしてある人たちは「信じる」ことにより権能の力は人に宿るのだ、と解されるようになりました。もっと大切なことは改革者たちは神の権能が回復されたことを一言も口にしなかったのであります。改革は回復ではなく、良意図を持っていても失なわれた神権は主が与えられるまで、どの教会であろうと回復することはできないのであります。

そして神権は主によりて与えられました。ジョセフ・スミスが最初の訪れを受けてから教えた真理と、権能は神聖なものでありました。神権は、一八二九年アロン神権を回復するよう任命を受けたバプテスマのヨハネにより、ジョセフ・スミスと、オリバアー・カウドリーの二人に回復されました。ジョセフとオリヴァーは旧約の時代を通して、また、イエスが地上においでになった時と同じ方法で、授手により神権を授ける権能を持った者の手により小神権を受けたのであります。それからしばらくしてから、大神権またはメルケゼデク神権が同じ方法により回復され、この御使は、ペテロ、ヤコブ、ヨハネでした。

一八三〇年四月六日に教会が組織、回復されるに先立って主はジョセフ・スミスに啓示を与え、十二使徒の任命を含め組織と権能と責任とその委任について注意深く教えを与えました。(教義と聖約一八・二〇)

特別な「鍵」またはこの神権時代の特別な責任を果す力は、一八三六年カート

神権は与えられた人や組織が、義しく神の御意志にそわなければ失なわれてしまいます。そうなると個人や全体として背教が起るのです。使徒たちの死んだ後の時代のキリスト教歴史を学ぶと、教会の指導者たちが神権の力を持ち啓示と霊感に導かれていたか、そして教会の指導者として神に認められていたか、どうかはっきり解ります。熱心に、注意深く調

ランド神殿に於いてジョセフ・スミスに授けられました。鍵は、在世中その責任にあった予言者によりそれぞれ与えられました。モーセはイスラエル集合の鍵をエライヤスはアブラハムの福音の権能の鍵を、エライジャーは死者の救いの必要な鍵を（神殿の仕事と系図）（教義と聖約百十章参照）

教会は初めから神の認められた方法と秩序により神権は受け継がれ、神権時代の鍵は教会を司さどる予言者により継がれてきました。そして主は権能と啓示と霊感により教会を導いて来ました。教会はペテロが、管理していた地中海のユダヤ、そしてガラテヤの聖徒達と同じように真の神の教会と聖徒は、大管長デビド・O・マッケイにより管理され導きを受けています。

教会に長老が聖任されました

「また教会ごとに彼らのために長老たちを任命し、断食をして祈り、彼らをその信じている主にゆだねた」（使徒行伝14・23）

その3 組織

ヨハネ黙示録の第一章で、ヨハネは神と神の王国とその完き組織をほめ、またヨハネは「主の日(安息日)に御霊に感じた」と書いています。そして、ヨハネは天の軍勢が神とその御子をたたえて歌を歌っていった。

「全能者にして、主なる神よ。
あなたのみわざは、
大いなる、また驚くべきものであります。

70人は福音を宣べる為に……

イエスは12使徒を選ばれた後70人を選び「2人づつお遣しになった」(ルカによる福音書10・1)

万民の王よ。
あなたの道は正しく、かつ真実であります。
主よあなたを恐れず、
御名をほめたたえない者が
ありましょうか。
あなただけが聖なるかたであり、
あらゆる国民はきて、
あなたを伏し拝むでしょう……」
(ヨハネ黙示録十五・三ノ四)

先例のないイエス・キリストの降誕と御業、十字架上の死、復活そして昇天という神のわざについて、時満たる神権時代の使徒故ジェームス・タルメッヂ長老は「地球とそこに住む人々が見証する最も偉大なできごとは、神の御子がこの世に来たり給うことである」といっています。予言者ニーファイは示現でナザレの町とそこに住むユダヤ人の処女を見て「……それはどんな処女にも勝って美しくまた麗しい処女である……」(ニーファイ第一書十一・十五)そしてニーファイはダビデの末から、主なる神は一人の予言者を起すであろうと言われました。「一人の予言者すなわち一人のメシヤ、言葉をかえていえば一人の世の救い主であるメシヤを起したもう……」(同十・四)またニーファイは神の御子が人々の中へ進んで行きたもうて地上における王国を組織するのを見ました。(同十一・二十四)

イエスは水と霊によるバプテスマを受けられて間もなく十二使徒と教会の役員をお選びになりました。神は御子が神の権能によりユダヤ人の間に組織されたのをお喜びになったことをニーファイは示現に見て、「私は天が開けて天使たちが人間に降りこれに恵みを施すのが見えた。……神の子羊が人々の中に出で行きたもうのが見え、また病気で多くの病になやみ、悪霊や汚らわしい霊につかれている多くの人々が見えた。……これらの人々は神の子羊の能力によって癒やされ、また悪霊や汚らわしい霊を追い出された。(同十一・三〇～三一)

福音書の著者の一人ルカは、キリスト教会が広がるにしたがい組織され、主は七十人を選ばれて、自身で行こうとしておられた地上のすべての町や村へ、二人づつ共にお遣しになった。……七十人が喜んで帰って来て言った……「主よ、あなたの名によっていたしますと、悪霊までがわたしたちに服従します。……それから「イエスは」弟子たちの方に振りむいて、ひそかに言われた「あなたがたが見ていることを見る目はさいわいである。あなたがたに言っておく。多くの予言者や王たちも、あなたがたの見ていることを見ようとしたが、見ることが出きず、あなたがたの聞いていることを聞こうとしたが、聞けなかったのである」。(ルカによる福音書十・一～十七、二十三、二十四参照)

イエスが神の仕事をなさっていた三年

間という間は自分の血族ユダヤ人を中心に教えられましたが、復活後は全人類にその扉を開けられた時の大管長会、ペテロ、ヤコブ、及びヨハネと他の使徒たちにいわれて、「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。（マタイによる福音書二十八・十九、二十）

使徒パウロは、コリント人への手紙でキリストが設立された完全な組織を人の体にたとえて、「からだが一つであっても肢体は多くあり、また、からだのすべての肢体が多くあっても、からだは一つであるように、キリストの場合も同様である。」とパウロは救い主の完全さを表わしています。「なぜなら、わたしたちは皆、ユダヤ人もギリシャ人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によって、一つのからだとなるようにバプテスマを受け、そして皆一つの御霊と飲んだ体である。実際からだは一つの肢体だけではなく、多くのものからできている。目が手にむかって、『おまえはいらない』とは言えず、また頭は足にむかって、『おまえはいらない』とも言えない。もし一つの肢体が脳めば、ほかの肢体も共に悩み一つの肢体が尊ばれると、ほかの肢体も共に喜ぶ。あなたがたはキリストのからだであり。ひとりびとりはその肢体である。そして神は教会の中で人々を立てて、第一に使徒、第二に予言者、第三に教師とし、次に力あるわざを行う者、次にいやしの賜を持つ者、また補助者、管理者、種々の異言を語る者をおかれた」コリント人えの第一の手紙十二・十二、十四、二十、二十一、二十六―二十八）

千八百二十年の春予言者ジョセフ・スミスが神とその御子イエス・キリストの訪れを受けてから義と祈りの十年が過ぎてから、そして天からの御使によりアロン及びメルケゼデクの神権を受けてから、ジョセフ・スミスは時の絶頂にユダヤの地で主がおたてになったと同じ教会を組織するよう啓示により教えられました。ジョセフ・スミスはイエスが王国とユダヤ人の間におたてになったと同じものであることを知って組織した教会を「われらは、教会には、初期の教会に在りたると同一の組織、すなわち使徒予言者、監督、教師、祝福師等のあるべきことを信ず（信仰箇条第六条）と言っています。時の絶頂においてイエス・キリストは十二使徒と教会を治め司さどる大管長会を選ばれたように、予言者ジョセフ・スミスも啓示によりキリストの特別な証詞人として十二使徒と大管長会を選んで、すべて回復された神の教会のまつりごとを行うようにしました。そして古代の使徒と同じように現代の使徒も自分の職業を捨て『人間をとる漁師』にそして『主の羊を飼う者』として世界を巡り与えられた権能により末日聖徒イエス・キリスト教会にこの時満ちたる神権時代に古代の教会にあったすべての賜と祝福が回復されていることを証詞しています。回復された権能に関して予言者ジョセフ・スミスは「われらは、福音をのべ且つその儀式を執り行うためには、啓示と権威ある者の按手により、神によりてその任に召されねばならぬことを信ず」（信仰箇条第五条）と教えている。

そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を予言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師・教師としておたてになった。　（エペソ人への手紙4・11～12）

1966年2月号のつづき

家族の夕べテキスト

■

第　六　課

■

私たちの天父は実在するお方であります

■

「家族の夕」テキストの製本がおくれていますからその間聖徒の道に揭載します。

「目標」

家族の者たちが私たちの天父は私たちが祈った時に聞いて下さる、実在するお方であることを知るように助ける。

この目標は一課だけで完全に達成することは出来ません。けれども〝私たちの天父に対する私たちの関係〟の部に於ける数週間の内に貴方は貴方自身の内に天父に就ての新しい感じを成長させることが出来、両親は子供たちの内に彼らが曾て感じたことのなかった、そして永遠に消えることのない感じを成長させることが出来るでありましょう。

「靈的ふんいきをつくる」

貴方がこのレッスンを準備するに当って、その気持を自分自身の内に持つように努めなさい。家族の者たちは貴方のその気持を受けるのであります。貴方が天父を呼ぶ時のその呼び方、貴方が彼に対して感じている感じが感化を及ぼし、家族の者たちの天父に対する感じ方を決定するでありましょう。両親はこのレッスンから子供たちと同様に或はそれ以上に学ぶことが出来るでありましょう。

貴方はレッスンが始まる前でも神聖なレコードをかけることにより、あるいは家族の誰かが〝家庭の内に〟の讃美歌を歌うことによって愛の情神をつくり出すことが出来ます。〝私は神の子〟の歌は私たちの天父に就ての如何なるレッスンを始めるに当っても子供たちのためによい歌であります。

敬虔な心からなる祈り、私たちの天父と語った経験を保持しなさい。

レッスンの始めに、貴方は家族の者が共に集った喜びを表したいでしょう。彼らに皆が家庭の[illegible]をつくることに協力してくれたことに感謝しなさい。両親は子供たちに貴方が天父がその貴い靈の子供たちであり、彼らを貴方に託し、貴方に彼らを導き教える特権を与えたことに感謝していると告げなさい。

貴方の二週間前の勉強はお祈りでありました。家族は彼ら自身の経験と証を与えて祈りに対する彼らの態度の変化に就て語り合うことが出来ます。

「レッスン」

「私たちは私たちの天父を知らねばなりません」

私たちは私たちが神の子供たちであることを学んで来ました。さて私たちは私たちの天父がどのような方であるかを学びたいと思います。私たちは、もっとよく彼を知りたいと思います。何となれば私たちはよりよく彼を知ることによって、より多くの親密感を彼に対し感じるからであります。それは人々に対しても同様で若し貴方が彼らに真の親密感を感じるためには、彼らを知らねばなりません次の話を話すか読み、あるいは貴方自身の家族の経験からこの点を説明しなさい。

「話」〝私たちの隣人〟

大都会に近い地方にオルドハム家は粗末な家を持って居りました。子供たちは皆、家を助ける為に余分な仕事を持って居りました。都会でお医者さんをしていたウイリヤムス博士が退職して地方に引込んで来てオルドハム家の隣に家を建てました。彼らは彼の名声を知っていたので彼に近づくことさえ恐れていました。彼らは彼をその庭に見つけると横を向いてしまうのでした。〝彼は私たちのような者には興味ないんだよ〟彼らは彼ら自身にそう言いました。十才になるデビド・オルドハムは何

度かウイリヤムス博士とお話をしました。そして彼は家族の者に、あんなえらい博士をお前のような者が邪魔してはいけないと注意されました。

一週間後にデビドは弟のステフェンを世話して居りました。家には彼ら二人しか居りませんでした。ステッフェンはガラスのコップをセメントの床の上に落し、よろよろとしてそのこわれたガラスの上に倒れました。幅広く切れた彼の頭から血が流れ出ました。デビドは驚き恐れました。血を止めなければならないのですが彼はどうしたらよいかわかりませんでした。丁度その時彼はウイリヤムス博士が庭で働らいているのを見ました。彼は博士に助けを求めました。ウイリヤムス博士はとんで来ました。彼はどのように手当てしたらよいかを、はっきり知って居りました。傷はデビドが思った程ひどくはありませんでした。それにしても出血が早く止ってよかったと博士は言いました。

ウイリヤムス博士は暫らくの間毎日傷を見に来ました。オルドハム一家は彼の奉仕に如何に感謝しているかを示そうとしました。母親はある時には彼にアップルパイを出し、次の日には焼いたパンを出しました。デビドは博士の庭のお手伝いをしましたが博士は遂にデビドを正式のお手伝いに雇いました。ウイリヤムス博士は、とてもよい隣人であることがわかりました。彼はオルドハム家のような家族を愛し、オルドハム家の者たちはまた彼を非常に愛しました。彼らは彼を喜ばせるであろうと知っていることを喜んでしたのでありました。彼らはよくお互に「ウイリヤムス博士なしで私たちは暮らして行くことが出来るだろうか?」と言い交しました。

ある日お父さんは意見をのべて「彼もまた私たちを必要としているかも知れないね」と言いました。

母親はそれにつけ加えて「貴方は彼を知った時に確かに彼に対する感じが変りましたね」と言いました。

それは私たちの天父を知ることに於ても同様であります。私たちは彼を知る必要があり彼を見ることが出来なくても彼を知ることが出来るのであります。イエスは祈りの中で天父に言いました。

永遠の命とは、唯一の、まことの神でいます。あなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストを知ることであります（ヨハネ伝三・一七）

「何故私たちは私たちの天父がどのようなお方であるか知らねばならないのでしょうか?」

永遠の生命とは何であるか、また私たちがそれを相続するにはどうしなければならないかに就て復習しなさい。イエスはこの聖句の中で苦しも私たちが私たちの天父とイエス・キリストを知ったら永遠の生命を相続するであろうと言われました。私たちは後のレッスンでイエスと知り合いになるように努めるでしょう。家族をして〝何故私たちは私たちの天父に就て知らねばならないのか?〟に就て討論させなさい。

次のような点をその理由とするように子供たちを指導しなさい。

若しも私たちが私たちの天父を知れば私たちは再び彼と共に住むでありましょう。

彼と共に住めるようになるためには私たちは今彼が私たちに為すように求めることを為しましょう。

私たちは祈りの中に彼と語り彼の助けと導きを受けましょう。

家族をして共に聖句（ヨハネ伝一七・三）を読ませましょう。

「私たちの天父はどのようなお方でしょうか」

私たちはある程度天父に似て居ります。私たちが天父の子供たちであると云う事実が彼に就て私たちに何を教えるでしょうか? に就て討論しなさい。すべての年令の子供たち、また同様に成人もこの事に就て話合うことが出来るでしょう。子供たちが表現する如何なる考えにも敬意を払うことによって家族の信頼を得るようにしなさい。彼らも貴方と同様に天父の子であることに就ての貴方の理解は尊敬の念を以て彼らを取扱う助けとなるでありましょう。人の考えを訂正する必要がある時でもその人の自尊心を傷つけることなく出来ます。子供たちがお互に訂正し合う時でもこの方法によるべきであります。ある子供たちは、またはある妻や夫でさえ、笑われることを恐れて自分の意見を発表出来ません。若しも貴方の子供さんたちが自由に話すことが出来たら貴方は彼らが何処に導きを必要としているか見ることが出来るでありましょう。家族の者たちの意見を私たちの天父は実在するお方であるという概念を成長させる方に向けなさい。下記は貴方の導きとなるでしょう。

私たちの天父は実在するお方であります。そうでなければ私たちは実在する者ですから彼の子供たちとなることが出来ません。

種はそれを生産した植物と同種のものに成長します。彼らは同じ種類の花や果物等をも、もたらします。若しも私たちがひまわりの種をまいたら私たちはひまわりの花が咲き、決してとうもろこしまたはばらの花が咲かないことを知って居ります。

小犬はその種類に生れます。この考えを貴方の家庭の小犬の経験によって成長させなさい。

私たちの天父の子供たちは天父のようになる資格があるという結論を以てその要点をはっきりさせなさい。

天父は聖文の中で私たちが彼に似ると教えられたので私たちにとって天父がどのようなお方であるかを知ることは大切なこ

とであります。

聖文を読むに当って若し貴方が親として子供たちの才能に確信を示して〝これは大人のための文章だけどお前はもう理解出来るだろう」と提案すれば子供たちを集中させる助けとなるでしょう。

先に指名されていた子供かまたは成人が下記の二句を読み家族の者はそれぞれ自分の聖書と高価なる真珠を見てこれに従います。

〝神は自分のかたちに人を創造された。すなわち神のかたちに創造し、男と女とに創造された。(創世記一・二七)

〝われ神、わが像の如くに人を造れり。わが生みし独子の像の如くにこれを造り、すなわちこれを男と女とに造りたり(モーセの著二・二七)

家族の者が理解出来ない如何なる言葉または表現をも説明しなさい。例えば彼の像の如くにとは、同じ形を持つことで彼によく似ることは人々が皆似通うことであります。これらの聖句で私たちの天父は何を告げているか討論しなさい。彼が最初の聖句に告げずに二番目の聖句で告げていることは何ですか。

(私たちはまたイエスにも似ているということで、それは彼が天父に似ていることを意味します。)

次の情報を貴方自身の表現を以て、私たちの天父が実在することを表現しなさい。

貴方は誰か天父を見た人を知っていますか?(予言者ジョセフ・スミス)

私たちは彼の説明によって天父の実在することを知って居ります。彼は肉体を腕を脚を持って居ります。(彼はイエスを指差しました。ジョセフは彼の足を見ることが出来ました)彼は眼や、口や、耳のついた顔を持っていました。(彼はジョセフを見、ジョセフに語り、ジョセフの語るのを聞きました。)

私たちは天父が持っていると同様の形を持って居ります。私たちは彼に似て居ります。私たちは皆肉体を持って居ります。私たちは手、腕、脚を持って居ります。私たちは皆、眼と耳と口のついた顔を持って居ります。

天父が如何に実在するお方であるかまた私たちが如何に彼に似ているかを知る助けとなる天父が予言者ジョセフ・スミスに自らに就て、もっと多くのことを示された句があります。

自ら読むかまたは誰かに教義と聖約百三十章二十二節を読ませなさい。

〝御父は人間の有する肉体と同じく触知し得る骨肉の体を有したもう〟

「私たちにとって、私たちの天父は実在するお方であると知ることは大切なことであります」

次のことを考えて見ましょう。私たちの天父は、私たちが住んでいるこの世界の創造を計画されました。如何なる動物またはその他の生物も彼の像には造られませんでした。唯、彼の子供たちだけが彼に似せて彼の像に造られました。そして彼の子供たちは地上のすべてのその他の造られたものの上に権能を持ったのであります。私たちの天父はこの世を彼に像られた彼の霊の子孫、彼の子たちのために祝福として計画されたのであります。予言者ジョセフが天父を見た時、人々はまだ天父が実在することを教えられていませんでした(教会は教えて居りませんでした。多くの者は神は単なる力、彼らが理解することの出来ない神秘的な善への力であると考えて居りました。神が予言者ジョセフ・スミスに姿を現されたことによって私たちの天父が実現するお方であると言う素晴らしい知識が再びこの地上にもたらされたのであります。

家族たちをして再び共に読むかまたは次の聖句を引用しなさい。

永遠の生命とは唯一のまことの神でいますあなた……を知ることであります。

イエスはこの聖句の中で私たちの天父を何と呼びましたか?(唯一の真の神)若しも私たちが私たちの天父は実在するお方でなく善いことを行わせる力であると信じていたら私たちはどうして〝唯一の真の神〟と知ることが出来るでしょうか? 次の事件は貴方が要点をはっきりさせる助けとなるでしょう。

神は実在するお方でなく善を強制する力であると教えられていた十二才の少女がモルモンの友人と共に初等協会に出席し始めました。数週間後に彼女はお祈りを頼まれました。彼女は言いました。「いいえ私は聖句を読みます。私は貴方の頼む他のことは何でも出来ますがただお祈りだけは出来ません」

「何故ですか」彼女の先生はたずねました。彼女は「祈るなんてこっけいだわ」と答えました。先生は彼女の態度を心配して唯一人だけの時に何故祈ることがこっけいなのかとたずねました。

彼女は言いました。「神さまは貴方の声を聞くことなんか出来ないんですもの、神さまはただ、善い行いをさせる力に過ぎません」

若しも貴方が先生だったら少女に何と言いますか? 家族に答えさせなさい。

先生は恐らく貴方が指摘した中からある事を彼女に告げたでしょう。先生は少女が聖書を信じていることを知っているので創世記から聖句を引用したでしょう。それから先生は言いました。「貴方はヘリコプターに近ずいたことがありますか?」少女はその経験がありました。彼女はヘリコプターが上陸した時風の力を感じました。彼女はヘリコプターが風をつくり出したことを知っていました。そしてそのつくり出された風または力はヘリコプターでなかったことも見ました。

図書案内

教義と聖約
高価なる真珠
モルモン経上質革製合本……一一〇〇円
教義と聖約
高価なる真珠　合本……三〇〇円
モルモン経（新訳）……三〇〇円
信仰箇条の研究……三三〇円
モルモンとは？（新版）……一五〇円
総合聖句の手引……一五〇円
日本系図探究要覧……一〇〇円
アロン神権者用学科課程……一五〇円
メルケゼデク神権、教師と生徒用
「モルモン経の読み方の手引」
……二〇〇円
ナザレのイエス……一〇〇円
正しい日本史……一〇〇円
家督権の祝福……一〇〇円
料理の作り方……五〇円
求道者教育法……一二〇円
神の王国……二三〇円
基督・イエス……三〇〇円

日曜学校用

モルモン経物語……一五〇円
旧約聖書物語……一五〇円
家族の昇栄……二〇〇円
福音の実践……二〇〇円
奇しきみわざ(上)(下)……二〇〇円
我等の標準聖典……二〇〇円
古代の使徒……一五〇円
シオン山の救い手たち……二〇〇円
教義と聖約の教え……二〇〇円

MIA用

我ら指導者のことば……二〇〇円
我らは信じる……二〇〇円
我らは生きる……一二〇円
我らは奉仕する
（一九六六年度テキスト）……一五〇円
生活の目標……一五〇円
今日の十誡……二五〇円
MIA・エンサイン・
ローレルの手引……一五〇円
演説が上手になる法……一五〇円
素晴しき考え
（一九六六年度テキスト）……二〇〇円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌（新版）……四〇〇円
レクリエーション歌集……四〇〇円

――注文は各支部長へ――

お知らせ

日曜学校六十六年度テキストは次のとおりです

Aコース　旧約聖書物語
Bコース　福音の実践
Cコース　福音の紹介
Dコース　家族の昇栄
Eコース　教義と聖約の教え

図書の購入は支部長会に申し出てください

編集後記

物事を間違いなく出来る人に私の頭は自然と下るそして尊敬の念を憶えます。間違いの少ないことに関しては、人よりも機械の方が優れている。勿も機械は神が定めた法則に従って動くのであるが。聖徒の道の編集にあたって感じることは文章や文字の誤植のないように校正読みをしたいものです。再校正をしてもまだ原稿の写し間違や校正落しを製本して発送の時目立ってしかたがない。二月号のように新任の宣教師のページでエルダー姉妹をロンドンから（本当はアメリカのワシントン州から）と書いて平気でいたりして……。

最近はある限られた国の言葉を機械で訳すことが出来るようになったと耳にしていますが、校正読も機械で出来たらと思います。誰だかそんな発明をしたらノーベル賞を受ける？　かも知れない。

■それにしても日本語の変りようは目まぐるしい程である。戦前教育と戦後ではカナの使い方が変り書く時に痛感させられる。春になると野原を舞う蝶をテフテフと書いてちょうちょうと読まされた。また「行きましょう」と書くのを行きませうと書かされた。小松姉妹は「いつ日本語を使い、いつ英語を使うかわからない」と言いました。ブラウスは英語だからシャツと言ったまでは良かったがさてスカートは英語だからこれを「シャツを着てハカマをはいた女の人」と言って笑はれた。昔バベルの塔がなかったらどんなに良かったと思う次第である。（山田）

支部所在地

北海道地方部

旭川	旭川市8条5丁目 ＭＩＡ集会所　旭川公会堂 電話（2—1545）
室蘭	室蘭市幸町89 電話（7054）
小樽	小樽市富岡町1ノ35 電話（2—8224）
札幌	札幌市北2条西24丁目 電話（63—7866）

東中央地方部

群馬	高崎市並榎町275 電話（2—7121）
甲府	甲府市中央3丁目12—2
松本	松本市開智1ノ1ノ6
新潟	新潟市中大畑町557 電話（2—8660）
仙台	仙台市光禅寺通り28 電話（25—0897）
東京中央	東京都港区青山北町6ノ34 電話（408—3307）
東京北	東京都中野区江原町1ノ8ノ14 電話（952—1531）
東京東	東京都江戸川区小岩町6—780 電話（657—5223）
東京南	東京都大田区南千束町249 電話（729—6311）
東京西	東京都武蔵野市吉祥寺東町1ノ7ノ7 電話（22—6764）
山形	山形市七日町4丁目12ノ23
横浜	横浜市港北区篠原町29 電話（49—8772）

西中央地方部

阿倍野	大阪市阿倍野区阪南町中1ノ38 電話（621—8327）
福岡	福岡市浄水町46 電話（52—8653）
広島	広島市古田町古江400ノ3 電話（31—6135）
金沢	金沢市上胡桃町11 電話（21—2131）
京都	京都市左京区下鴨松原町44
名古屋	名古屋市昭和区北山町3ノ41 電話（73—4210）
西ノ宮	兵庫県西ノ宮市仁川町4ノ54 電話（5—0141）
岡町	大阪府豊中市岡町北2ノ18 電話（52—1236）
岡山	岡山市北方70
三ノ宮	神戸市灘区篠原本町4ノ35 電話（86—2602）
柳井	山口県柳井市今市391

沖縄地方部

普天間	沖縄宜野湾市野嵩区328
那覇	沖縄那覇市崇元寺町1—128—20 電話（8—6568）

建築部事務所　東京都港区青山北町6ノ34
電話（402—4010）

（誤りのある支部の支部長はご一報ください）

Tsukuchi

聖徒の道

一九六六年三月一日発行

振替口座　東京一六二二六番

発行人兼編集人　アドニー・Y・小松

発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会

印刷所　合名会社三五堂

定価八十円

一年予約八百四十円（申込は支部長まで）